

新たな日の出

モノづくりの進むべき道



国内の耐摩耗工具市場が伸び悩んでいる。日本機械工具工業会によると、2024年度の国内出荷額は前年度比4億円増の354億円で全体に対するシェアは同0・1%減の7・3%。超硬耐摩耗工具・金型の製造・販売で30%以上のトップシェアを占める富士ダイスは、24年1月に5代目社長に就任した春田善和社長が、100年企業を目指して変化に対応できる企業体質への転換を進めている。春田社長に事業戦略などを聞いた。

次なる成長へ

6月に創業76周年を迎える。また当社は15年6月に、7月に新たなグループ。当時の東京証券取引所市場企業理念とビジョンを策定。第一部に株式を上場し公開しました。

「創業者の教えを示した。分業した。100年企業を『富士の道』というように、目指す当社にとって、新たなころがあり、その教えを守り、学んできたこと、これまで来られたと実感している。また当社は15年6月に、7月に新たなグループ。当時の東京証券取引所市場企業理念とビジョンを策定。第一部に株式を上場し公開しました。

春田 善和 氏
富士ダイス社長

「次なる成長に向けて、我々の進むべき道を自分たちで決める必要がある」と考え、策定した。ビジョンには、すべてのステークホルダー（利害関係者）に感動体験を届けられる企業でありたいという願いを込めた。現在の事業環境をどう見えていますか。

「当社の業績動向は経済産業省の『鉱工業生産指数』とリンクしていることが多く、コロナ禍前の水準には戻らず厳しい状況が続いている。また、日本機械



モノづくり日本会議
モノづくりへの挑戦

脱炭素・循環型社会視野に新事業



新ビジョンには、すべてのステークホルダーに感動体験を届けられる企業でありたいという願いを込めた。と話す春田さん

「24年度を最終年度とする3カ年の中期経営計画では重要施策の一つに『新規事業の確立』を掲げている。資源分野ではAI（人工知能）データセンサーに使用される電子部品向けの金型の開発に取り組んでいる。次世代光通信に使われる光ファイバーと光学部品を接続するコネクタの金型で、超精密加工が求められている。開発から数年で要求される精度の金型がある程度出来上がった」

「次世代エネルギー分野では水素発生用触媒とその関連製品の開発を進めている。粉末冶金技術と超高压の合成技術を開発に生かしている。新領域に踏み出すのではないかと期待している。リサイクル分野では製品化した工具や金型を回収し、再利用する資源循環の方法を検討中だ。約3000社に及ぶグループ取引先から不要品を回収し、新たな製品の材料にしたい」

100年企業目指し新理念・ビジョンを策定

コア技術生かし事業領域拡大

「人材獲得が厳しくなる。自動化工具計画を進めたい。」「人材獲得が厳しくなる。自動化工具計画を進めたい。」「人材獲得が厳しくなる。自動化工具計画を進めたい。」

「脱炭素依存。自動化工具計画を進めたい。」「脱炭素依存。自動化工具計画を進めたい。」「脱炭素依存。自動化工具計画を進めたい。」